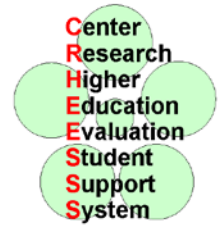


週刊センターニュース No.255



第255号(2009年4月20日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 共同学習会のご案内 ○●○

第227回

日時: 4月23日(木) 16時30分~18時

会場: 総合教育1号館6階E1講義室

企画者: 渡辺 達雄(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「高等教育における職業教育の在りかたについてー韓国の専門大学の事例紹介を中心に」

発表者: 渡辺 達雄(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 昨年末に、文部科学大臣より「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問がなされた。雇用市場等の社会変化と、学生・生徒の興味・関心、進路の多様化等を背景に、高等教育段階においてもキャリア教育・職業教育の更なる充実が求められている。学生のキャリア形成のために出来ること、また職業を核とする教育プログラムといった点に立って、諸外国ここでは韓国の短期職業高等教育機関である専門大学に焦点をあて、その対応状況をみていきたい。

第228回

日時: 4月30日(木) 16時30分~18時

会場: 総合教育1号館6階E1講義室

企画者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「自己点検・評価と内部質保証体制ーオーストラリアの事例ー」

発表者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 平成16年4月から認証評価が義務化され5年が経過し、かなりの数の認証評価活動が行われてきた。しかし、認証評価の数が増えるにつれ、各大学が提出する自己点検・評価報告書への信頼性が問題となるケースも増えてきている。そこで、文部科学省は、自己点検・評価の意味を大学の「内部質保証」という観点から改めて考証し、自己点検・評価を有効に機能させる方策を追究する研究を大学基準協会に委託した。今回は、その委託研究の一環として訪問調査を行ったオーストラリアでの事例について報告し、金沢大学での自己点検・評価活動の在り方について考えたい。

○●○ 新任教員(教育支援システム研究部門准教授)のご紹介 ○●○

4月1日に東京大学から金沢大学に着任致しました山田政寛(やまだ まさのり)と申します。教育工学を専門領域に、外国語学習におけるコミュニケーションツールの効果について研究してきました。コミュニケーションツールといってもいっぱいあるのですが、私はビデオカンファレンスやテキストチャットといったリアルタイムでコミュニケーションを行うツールを対象に研究をしてきました。具体的には外国語学習に使用する際に、相手の動画や音声、またはテキスト入力といった特徴がどのように学習者の心理的側面に影響し、実際のパフォーマンスへ結びつくのかについて研究してきました。その知見を踏まえ、外国語学習における有効なコミュニケーションツールの設計について提案を行ってきました。

前任では、東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座(BEAT: <http://beatiii.jp>)という産学連携研究部門で特任助教として研究プロジェクトのシステム開発などのディレクションをとって

ました。BEAT ではいくつかの教育研究プロジェクトがあるのですが、私が関わっていたのは、「なりきり English!」プロジェクト（2006年～2008年）と「CONOMI+」プロジェクト（2008年～現在）です。現在も「CONOMI+」の一部ディレクションを取っております。今回のセンターニュースでは私が関わっていたプロジェクト「なりきり English!」について簡単に紹介します。

◇「なりきり English!」

「なりきり English!」は企業で働く社会人向けの英語リスニング学習システムです。今まで（今もですが）企業に入ると英語学習と言えば、TOEIC 対策の学習をしたり、ビジネス英語の教科書を使って学習することが多いです。しかし、それで学んだ英語は実際の業務に役に立つのか？というとなかなか難しいものがあります。業務というのは企業それぞれでやり方も違いますし、業務で使用される言葉も異なります。「自分の業務がそのまま英語学習教材になれば、学習した英語の知識・能力は実際の業務でも役に立つのではないか（学習科学の言葉を使うと「転移」ということになります）」という発想から始まったのが「なりきり English!」です。

「なりきり English!」は時間がない社会人向けに、効率よく学習してもらうために、モバイル（Willcom 社 W-Zero3）向けに提供された英語リスニング学習システムです。教材は実際の業務を教材化するために対象となる企業の上層部、人事部や現場のマネージャーへインタビューを行い、英語リスニング用のストーリーを作っています。「私の会社ならばあるかも・・・」という点で実際に働いている社員にレビューもしてもらっています。また効率よく学習してもらうために、リスニング指導理論に沿って教材開発をしています。実際のリスニング教材は映像で主に提供されています。

この「なりきり English!」の効果検証のために、新日鐵株式会社様の営業担当向けに教材開発を行い、3週間の実証実験を行いました。営業担当とそれ以外の部署の2群に分けて効果の違いを見たところ、英語能力面では双方の群ともに伸びましたが、営業担当に特別な効果は確認できませんでした。実証実験2か月後に実際の業務に役に立ったか、質問紙で調査したところ、営業担当の方が、「なりきり English!」で使用された表現や業務知識を使って業務に従事している人が統計的に多いことが示されました。

この「なりきり English!」は1つの企業にカスタマイズされた形になっています。研究知見としては実践にも提案できる知見を出すことはできたのですが、そのため普及面ではコストがかかるという問題もあります。「なりきり English!」のスピンアウト企画として、「なりきり English!」の研究知見を活かした「英語 de キャリアアップ～IT 業界編」を開発し、2008年1月から3ヶ月間、iTunes で無料配信しました（現在は閉鎖）。対象ユーザー範囲を「IT 業界に勤務する人」と「なりきり English!」よりも緩めに設定し、iPod 向けの音声のみのコンテンツで提供しました。幸いなことに3か月で20万ダウンロードを超え、8週間にわたって、iTunes コンテンツランキング総合1位をキープしました。

日本人は英語を少なくとも6年は学習しています。それは教養的な英語能力を育成してきたに過ぎません。その習得した基本的な能力を実際の現場で活かせるように「転移」を促進する仕組みが今、求められています。今後、英語教育にも学習科学の観点から見た研究や実践で出てくることを期待したい。

お問い合わせ、内容に関する質問はこちらまで Email: masanori-y@el.kanazawa-u.ac.jp

【参考文献】（「なりきり English!」の1年目の成果に関する論文）

島田徳子, 山田政寛, 北村智, 三宅正樹, 館野泰一, 山口悦司, リチャード・ハリソン, 秋山大志, 中野真依, 大房潤一, 長岡健, 山内祐平, 中原淳. (2007) 社会人向けモバイル英語リスニング学習教材の開発と試行, 教育システム情報学会論文誌, 24(4), 265-276

(文責: 教育支援システム研究部門 山田政寛)